

🍀 “An Outpost of Progress”と落雁

田中賢司

初めてジョン・ステイプ先生にお会いした場所は東京のご自宅であった。たしか1990年代半ばのことである。その日は薄曇りで、私はコンラッドの集まりが日本にあることだけでうれしく、しかも第一線の研究者に会えるということで出張前からのぼせていた。

案内をいただいでお宅に入ると、たしか私だけだったような気がする。リビングとキッチンの間には大きな顔の浮世絵の暖簾が仕切り代わりに吊ってあった。薄い生地なので、先生が通るたびにその浮世絵の顔がふわりと浮き上がるのを、エレガントだなと感じた。奥田洋子さんに続いて設楽靖子さんが来て読書会が静かに始まり、私はつたない英語で“An Outpost of Progress”についての個人的な感想を述べ、読書会は終わった。

お茶の時間になったので、私は京都駅で買った和菓子の落雁を差し出した。読書会作品の結末が角砂糖にまつわる争いであることを意識したのかしなかったのか、今では思い出せないが、先生が大笑いされながら落雁をお茶と一緒につまんでおられたので、私は言葉を越えた何かが伝わったことが素直にうれしかった。

東京では銀座のイタリアンレストランで食事をして、近くで研究会が行われることもあった。ある晴れた日もステイプ先生は先においでになっていて、早めに着いてしまった私はほんのしばらく会話を交わせた。“It is a lovely day, isn't it?”と話しかけると、“Yes, a perfectly lovely day.”とにこやかに返された。ヴェジタリアンなのに、眺望と雰囲気の良いがお好きだったのか、ミートソースの濃厚なイタリアンレストランでは何度か食事を一緒にした。イタリア人のウェイターがさりげなく手首を振って見せた濃紺の地色に金文字のローレックスに目を見張りながら、私がワインの試飲をさせていただいた時には、グラスの向こうに背が高く、肩幅の広い、堂々とした体躯の先生のにこやかな笑顔があった。さりげないもてなしだった。

数年してからのこと、先生が京都大学にしばらくおいでになると聞いて驚いた。宮川美佐子さんとはそこでお会いし、さらに多くの知遇をいただいた。*Heart of Darkness* の研究会の時は、相変わらずしどろもどろの英語で会の方々を困らせたが、先生はいつもにこやかに受けて下さった。京都

で最後の研究会は“*Il Conde*”だった。懇親会では、昼食でよく希望されたフランス料理店ではなく、夕方から居酒屋で一緒に過ごしたが、相当な酒豪であることを知った。つらい結末の多いコンラッド作品のことを、“*Miserable, but necessary.*”と言っておられたことが思い出される。

2007年夏、マルセイユで調査を終えた私は、その結果をそのまま英国のコンラッド学会で発表した。直後、すれ違い様に“*You’re exhausted?*”と声をかけて下さった。ちょうど *The Several Lives of Joseph Conrad* (2007) の出版もあったため、さっそく購入して、その場でサインをいただいた。先生の手にかかると、荒々しいコンラッドの一生がかなり優雅になった気がした。国立海洋博物館での記念講演では、発表原稿の紙を読み終わるたびに片羽を広げるようにサイドテーブルに裏返して置いておられた。

ステイブ先生が編集された *The Cambridge Companion to Joseph Conrad* (1996) は、社本雅信先生が尽力されて2012年に『コンラッド文学案内』として研究社から出版された。訳者の一人にいただいた私は、しばらくしてふと落雁と一緒に食べた時のことを思い出した。

先生の体調がすぐれないことを耳にしてから、様々な思いがあって一通の電子メールを送った。個人的なお礼を述べただけであったが、次のようなメッセージが返ってきた。

Dear Tanaka-sensei!

How very kind of you to write and to say what you do about my influence on Conrad studies in Japan. It was a sheer pleasure to discuss and re-discover his work with different sets of eyes from different perspectives and I have always cherished our contact and that with other Japanese friends. Do please accept my thanks for your kind words and thoughts. They mean a great deal to me.

With kind regards,
John Stape

このメッセージを読んで確信した。コンラッドを追跡した先生の足跡の一部が、私の心の *the outpost of progress* だったのだ。今でも先生の往時の声は <https://www.youtube.com/watch?v=SZUEguK_0FU> で聞くことができる。膨大な先生の業績を前にしながら、2016年6月、ポーランドの学会最終日に接した「落雁」の知らせを思い出している。

(たなか けんじ 海技大学校 教授)